

健康と環境を守る

# 保健環境センターだより



## マダニが媒介する感染症から身を守ろう！

### マダニって何？

マダニの成虫は、動物を刺して血を吸います。血を吸う前は3～8mm と大変小さいですが、血を吸った後は10～20mmくらいの大きさになります。春から秋頃(3～11月頃)は、マダニが活発に動く時期で、成長や卵を産むために野生動物(シカ、イノシシ、ウサギなど)から血を吸っていますが、野外活動中のヒトからも血を吸うことがあります。自然が豊かな森や林、竹やぶなどのほか、公園や庭の草むら、河川敷など身近な場所に生息しています。

タカサゴキララマダニ



実際のサイズ(参考) 出典:国立感染症研究所

### マダニはヒトに病気をうつす？

病原体を持つマダニに刺されると、感染症にかかることがあります。マダニによっておきるヒトの感染症には日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ライム病、ダニ媒介性脳炎など様々です。

これらの感染症にかかり、死亡した事例も報告されています。また、2022年には世界で初めてオズウイルス感染症による心筋炎で死亡する事例が日本で確認されました。

栃木県内では、2014～2023年の10年間で日本紅斑熱の発症者1名ですが、SFTS ウイルスを持つマダニの存在は確認されていますので注意が必要です。



厚生労働省 HP  
「ダニ媒介感染症」



国立感染症研究所 HP  
「マダニ対策、今できること」

### マダニに刺されないようにしましょう

マダニによっておきる感染症の予防に有効なワクチンはありません。そのため、マダニに刺されないようにすることが大切です。キャンプや山登りなど野外活動をするときの対策として、①腕・足・首など肌の露出を減らす服装をする、②野外活動後にマダニが付いていないか確認する、③服に付いたマダニはガムテープを使って取り除く、④防虫スプレーを使い付着するマダニの数を減らすなどがあります。

### 服装のポイント

帽子・手袋の着用、首にはタオルを巻く

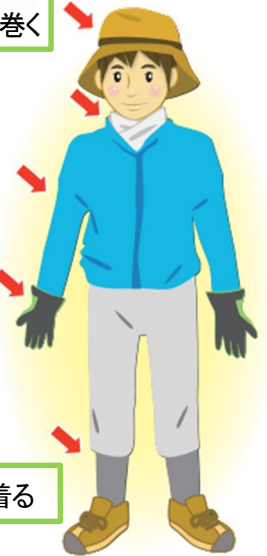
長袖・長ズボンを着用する

シャツの袖口は手袋の中に入れる

シャツの裾はズボンの中、ズボンの裾は靴下か長靴の中に入れる

足を完全に覆う靴を着用する

マダニを見つけやすい明るい色の服を着る



### マダニに刺されたら？

マダニはハサミのような口をヒトや動物の皮膚につき刺して血を吸います。手やピンセットで無理に取ろうとすると、マダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまうおそれがあるので、刺されてしまったら、皮膚科などの医療機関で処置してもらいましょう。また、刺されたあと数週間程度は体調の変化に注意が必要です。発熱などの症状がある場合は、医療機関で診察を受けてください。(微生物部)



# 感染対策を継続しよう！

## ～新型コロナウイルス感染症～

### 日頃の感染対策を大切に

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から5類感染症に位置づけられました。これにより、感染対策は個人や事業者の判断にゆだねられ、それぞれが自主的に取り組むことになりました。

しかし、ウイルスの性質が変わったり、存在自体がなくなった訳ではありません。高齢者や基礎疾患のある方、妊娠後期の方などは重症化しやすいと考えられているため注意が必要です。

自分だけでなく、身近な人を守るため、基本的な感染対策を心がけましょう。

#### ～基本的な感染対策～

○石けんと流水による手洗い

○換気

○消毒



○マスクの着用、咳エチケット



特に医療機関や高齢者施設へ行く時、満員電車の中などではマスクの着用を心がけましょう。

### 患者数の集計方法

5類感染症となり、新型コロナウイルス感染症の患者数の集計方法は、すべての医療機関に対して患者数の報告を求める「全数把握」から「定点把握」と呼ばれる方法に変わりました。「定点把握」とは、全国各地であらかじめ指定した医療機関（定点）から定期的に患者数の報告を集めることで、地域ごとの流行状況を把握する方法です。定点の数は人口や医療機関の分布に応じて決められています。

例えば「新型コロナウイルス感染症が定点あたり1.00」とは、「定点の医療機関に1週間あたり平均1人の新型コロナウイルス感染症患者が受診した」ということを示しています。

インフルエンザなどの他の感染症でも同じ方法で患者数を集計し、流行状況を把握しています。

#### < 定点あたりのコロナ患者数の求め方(例) >

県内76の  
医療機関  
(定点)



1週間分の患者数の合計

患者数

医療機関数

定点あたりの  
患者数



÷



=

1.00人

76人

76施設

### 感染症情報センターのHPをチェックしよう！

見てほしいまる～！

感染症を予防するためには、感染症の流行状況に関心を持つことも大切です。保健環境センターには「感染症情報センター」があり、県内で発生している感染症の情報や予防対策などをホームページで発信しています。流行の状況をいち早く捉えて警報や注意報を発令していますので、日々の感染対策の参考にしてください。

(企画情報部)



発行 栃木県保健環境センター  
TEL : 028-673-9070  
E-mail : kenkou-ko@pref.tochigi.lg.jp  
< 栃木県保健環境センターホームページ >

〒329-1196 宇都宮市下岡本町 2145-13  
FAX : 028-673-9071

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/index.html>